

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 総合シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業(事業期間:令和3年度～令和5年度)
事業の目標	<p>●大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>●また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>●さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から電車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>●本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまろの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくるで」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>●これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<p>●農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。</p> <p>●子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業)</p> <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <p>●これらの取組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。</p>

【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	令和5年度 (増加分)	累計
道の駅奥河内くろまろの郷年間売上高【億円】①	目標	8.54	0.42	0.46	0.48	1.36
	実績		0.05	0.46	0.48	0.99
おおさか河内材の木材供給量(原木材積)【m ³ 】②	目標	2,400.00	40.00	10.00	10.00	60.00
	実績		-240.00	10.00	10.00	-220.00
「子育てのしやすさ」に関する市民満足度【%】③	目標	19.10	0.40	0.50	0.51	1.41
	実績		-0.60	0.50	0.51	0.41
社会動態の転入者/転出者の率【%】④	目標	78.00	4.00	4.00	4.05	12.05
	実績		0.04	4.00	4.05	8.09
令和3年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		<p>■KPI①の令和3年度増加分について未達成となっている。令和3年度においては、新型コロナウイルスの影響から、当初の実施計画にて予定していたイベント出展等の事業を実施できず、道の駅を含む本市の観光情報の発信機会が減少した。代替事業として情報誌への広告掲載を実施したが、コロナ禍の影響もあり、集客力の高いイベント等の情報を掲載することが出来ず、効果的な観光誘客に繋がらなかったと考えられる。あわせて、道の駅の営業形態が、感染症対策のため縮小されていたことにより、コロナ禍以前に想定していた売上増加に繋がらず、前年度からの増加額に影響したと考えられる。</p> <p>■KPI③についても、令和3年度増加分については未達成となっているが、これはコロナ禍において子育て世代を含む市民を対象としたイベント等が実施されなかったことや、市内公共施設等の利用が制限されたことなどもあり、子育て世代の本市での生活に対する満足度の低下につながり、KPI③の低下につながったと考えられる。</p> <p>■KPI④については、増加傾向にあるものの、令和3年度増加分について未達成となっていることから、現在の住宅施策や、交流人口増加に向けた本市の魅力発信が、定住や転入の動機づけには効果的に結びついていないと考えられる。</p> <p>⇒以上のことから、KPI①③④の達成に向け、今後においては、特に子育て世代を中心とした交流人口及び定住人口の増加に向け、本市の魅力を効果的に発信する施策の検討が必要であると考えられる。</p> <p>■KPI②については、未達となっているが、一方で、おおさか河内材の使用量(製材品等)は、令和2年度から40m³以上増加していることが判明している。このことから、木材搬出量(原木)増加を促すため、木材の搬出に係る支援も新たに市独自で開始し、本交付金事業として実施する「木のある暮らし推進事業」による取り組みと併せて、川上・川下の両方向からKPI②の増加を促進していく。</p>				

※令和4年度以降は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業①	観光誘客促進事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和3年度実施事業	・市外からの観光誘客促進PR事業 市内外の子育て世代に対し本市の良好なイメージの拡大を図り、交流人口と定住人口の増加を推進することを目的に、本市の観光資源・地域資源を主に市外の観光施設を利用する観光客に対し直接PRするため、大阪市内の宿泊施設にて配布・設置される雑誌への広告掲載を実施した。 掲載媒体: ホテル設置型情報誌「大阪観光コンシェルジュ」Vol.6	[参考指標] ●設置施設数:約437施設 ●令和3年度観光入込客数:985,600人(R2年度比88,400人増)	300
		(合計)	300

	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初計画において出展を予定していたPRイベントが延期となったことから、コロナ禍においても確実に実施が可能であり、本市の観光資源・地域資源を広くPRすることが出来る広告掲載に変更し実施した。 ・大阪市内の宿泊施設利用者にターゲットを絞り、潜在的に観光に興味関心を持つ層が読む媒体への広告掲載を行ったことで、コロナ禍において対面でのイベント実施等が制限される中、日本遺産を中心とした本市の観光資源に対する認知獲得と来訪動機の醸成に向け、効果的かつ効果的に取り組むことが出来た。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・新型コロナウイルス感染症の影響も減少し、観光需要が回復しつつあるため、今後においては、更なる交流人口及び定住人口の増加に向け、本市の魅力効果を効果的に発信する取り組みが必要である。 ・本市の観光コンテンツの認知獲得に係る情報発信に加え、それらを組み合わせ、市内の周遊と観光消費の促進に向けた取り組みを実施していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業②	木のある暮らし推進事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和3年度実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・おおさか河内材活用事業補助金 地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。 補助金額: おおさか河内材使用量(m³) × 60千円～100千円(使用量による) 	[参考指標] ●本補助金活用によるおおさか河内材使用量 ・令和3年度: 41.3m ³ ●おおさか河内材使用量(本補助金活用以外の使用含む) ・令和2年度: 37.84m ³ ・令和3年度: 82.52m ³ ⇒増加量: 44.68m ³ ※本市で把握できている分のみ	3,590
		(合計)	3,590

	【令和3年度評価】	【令和3年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、令和2年度に対して40m³を超える材の使用量の確保ができた。 ・補助金事業により、「おおさか河内材」のPRに繋がり、材に関する問い合わせも増加した。 ・本事業により林業振興を図ることができたとともに、市内での木質化事例が増え、森林資源の有効活用を促すことができた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおさか河内材」の活用支援及び取組周知・情報発信を引き続き実施していく。 ・木材搬出量(原木)増加を促すため、木材の搬出に係る支援も新たに市独自で開始し、今回の「おおさか河内材」活用支援の取り組みと併せて、川上(森林側)・川下(使う側)の両方向から促進していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	